

国境周辺の空気浄化 米加が基本原則に合意

米加両国は、国境周辺の空気汚染をなくするための基本原則に合意した。

これは、将来締結される正式な協定の柱になるもので、次の七項目からなっている。

- 一、国境間空気汚染の防止および改善
- 二、新しい汚染排出技術の開発
- 三、排出基準に関する協議の強化
- 四、科学調査および開発の強化
- 五、国境間汚染の影響に関する調査・評価の強化
- 六、長期的環境変化の評価
- 七、汚染補償の検討

カナダ大使館の新陣容

今夏の人事異動の結果、カナダ大使館のカナダ人職員は大幅に入れ替わった。新陣容は次の通り。

- 大使** ブルース・ランキン
公使 ジョン・アーウィン
ジム・テイラー (経済商務担当)
商務一般担当 ジョン・テナント
参事官、**ビーター・キャンベル** 一等書記官
工業製品担当 ボブ・メーソン参事官、**カール・コンキニ** 二等書記官
農産物担当 ドン・マクニコル参事官、**ジャクソン・ガードナー** 一等書記官

- 金属・鉱物・エネルギー担当** リチャード・ロバット一等書記官
林産物担当 ジョセフ・カロン一等書記官
一般消費材・自動車担当 マーガレット・ヒューバー一等書記官
政治関係 マーティン・コラカツト参事官、**アラン・ジョーンズ** 二等書記官

- 経済関係** デビッド・ライト参事官、**ボブ・グラウワー** 一等書記官、**ヒュー・モージー** 二等書記官
科学・技術担当 ジョセフ・マクドウオル参事官
広報・文化担当 ブルース・バーネット一等書記官、**ジョン・スローン** 二等書記官

- 領事部** ロバート・アーシャンボリー一等書記官
武官 **ゴードン・フォース** 大佐、**ロジャー・マクダウ** 軍曹
その他 移民担当 **コン・アダムス** および **ビーター・リリアス**、査証部 **ティック・デュワー**、関税担当 **ゴードン・バロー**、**ジム・シエリ**、**ブラッド・バーカー** および **ビ**

- ンセント・ゴードロー**、**観光局** **メル・マクドナルド**、**ウエイン・セントジョン**、など。

BC州沿岸に大穀物港

ブリティッシュ・コロンビア州プリンス・ルパートに、穀物積出し用の港が建設されることになった。

ドン・マザンコウスキー運輸大臣によると、施設は来年着工され、四年以内に完成される見込み。費用は一億ドルから一億二千五百万ドルの間という。

プリンス・ルパートはバンクーバーからおよそ八百キロ。いずれは穀物に加えて、石炭その他の一大積出し港にするという構想がある。



カナダ経済の諸指標

生計費 七月の消費者物価指数(一九七〇年一一〇〇)は一九二・一で、前年より〇・八パーセント、去年の七月より八・一パーセント上昇した。

工業生産 五月の工業生産指数(一九七一年一一〇〇)は、季節調整済みで前月より〇・六パーセント高かった。

失業率 七月の失業者は前月より五千人減って合計七十九万三千人。労働人口千六百七十七万二千人の六・八パーセントに相当する。季節調整済み七・二パーセントは、六月より〇・三パーセント少ない。
労働者所得 五月の全労働者所得

は前年五月より一〇・五パーセント高く、百十八億九千六百万ドル(推定)に達した。
労働争議 労働争議による休業は二百七件、時間口スは六十九万三千三百五十八人時。

キーンリーサイド氏来日 五十年前、在日公使館開設

一九二九年五月、アジアにおけるカナダ初の公使館を日本に開設するため東京に派遣され、以来七年間在任して日加外交関係の基礎をつくったキーンリーサイド元一等書記官(写真)が、八月末に八王子で開かれた日加会議に出席するため来日した。

キーンリーサイド氏は、カナダや米国各地の大学で歴史の教師をつとめたあと、一九二八年に外務省入り。その翌年、外交関係の樹立が決まっていた日本にマロー初代公使より一足先に派遣され、代理公使として公使館開設の準備にとり組んだ。最初の公使館事務所兼公邸は、現在の渋谷駅からほど近い「永井邸」におかれた。

キーンリーサイド氏は、在任中、吉田元首相と親しく、また各層の人々と親交を結んで、日加関係の地盤づくりに大きく貢献した。

帰任後は、外務次官補、駐メキシコ大使、鉱山・資源省次官、国連技術援助局長などを歴任。国連在任中(一九五〇―五八年)は、第三世界への技術援助の可能性を打診するため、三度日本を訪問している。日本はまだ戦争の破壊か



ら立ち直ろうとする時期で、「趣旨を説明するだけに終わった」という。

その後、ブリティッシュ・コロンビア州電力公社の会長、ノートル・ダム大学学長などをへて、現在はコンサルタントの仕事をする。かたわら、いろいろな組織や運動にかかわり、また自叙伝の執筆に余念がない。キーンリーサイド氏には、日本在任中に書いた日本の教育史をまとめた本を含め、著作が三冊ある。自叙伝では、日本のことが四分の一ほどを占めるはずだという。書き終わるのは一九八一年の予定。

今度の来日中、キーンリーサイド氏が最も喜んだのは、カナダ公使館の開設以来、長い間通訳をつとめた三笠良人氏と再会したことだ。三笠氏(三鷹市在住)九十二才、キーンリーサイド氏八十二才、共にすこぶる健康で、肩を抱き合っ

経済成長率三・五パーセント OECDが予測

失業率八・五パーセント、インフレーション率八・七五パーセント、国民総生産(GNP)の上昇率三・